

# 建交労 ひかい

2022年11月号

発行：建交労 No.224

岐阜農林建設連合支部

〒501-4234

郡上市八幡町五町1-4-15

電話 0575-67-1582

すべての労災・職業病の根絶をめざす

## 2年ぶりに実現！

## 組合員のみなさんと一緒にキャラバン行動！



10月25日 東京行動 厚生労働省前

10月3日(月)から10月26日(水)まで、第33回目となる『なごん肺アスベスト全国キャラバン』行動を行いました。

この2年間はコロナ感染拡大のため、組合員のみなさんの参加ができませんでした。しかし、対策がなされ久しぶりに全員で取り組むことができました。事務所だけでなく組合員とのキャラバン行動は、活気があふれていました。

例年通り岐阜県、岐阜労働局、経産省要請を行い、最終日には東京集結行動に参加しました。

また、トンネルじん肺救済法成立を目指して地元国会議員要請を行いました。



## なくせじん肺キャラバン行動

## 岐阜県要請

10月18日、建交労愛知分会の石村書記長・古里書記、岐阜県本部の山田執行委員長、弁護団の伊藤弁護士の応援をいただき13名で要請しました。県は、環境生活部・健康福祉部・県土整備部など14名が対応しました。



県に要請書を渡す山田委員長

アスベスト粉じん対策について、延床面積300㎡の建築物についても調査台帳の整備が進んでいること

が分かりました。一方、レベル3の成形板については、ほとんど整備が出来ていませんでした。解体工事の届け出があったときに事前調査を徹底するとの回答でしたが、無届け解体工事の問題になっていく中、届け出時の調査では、アスベスト粉じん対策が十分行われるとは考えられず、今後も県に要請していく必要があります。

最高裁で原告勝訴が確定した三井金属神岡鉱山じん肺訴訟 2陣代表の小北さんは「県は事業者に指導権限がないから対応できないということではなく、じん肺被害で苦しむ原告・家族の思いを受け止めて動いてほしい」と強く訴えました。

## 岐阜労働局要請

局は、監督監察官ら5名が対応しました。じん肺患者にとってインフルエンザや肺炎の罹患は生命の危険につながります。そのため、インフルエンザ予防接種、肺炎球菌ワクチンを労災保険の給付対象にするよう、ここ数年キャラバンで要請しています。労災監督官は「労災法13条において、労災の対象となる療養補償給付の規定を定めている。対象となっていないが本省へ伝える」と回答しました。

建設アスベスト給付金が本年1月より施行されましたが、情報提供などスムーズに行われていない実態を報告。局の担当者は関心を寄せて、実態について質問しました。



10月18日 岐阜県庁前での集合写真

弁護団の小林弁護士が、神岡鉱山じん肺訴訟2陣の判決内容について詳細に説明しました。被害について、CTだけではじん肺管理区分決定の高度の信用性を覆すことができないという判決であったことを伝えると、局の参加者は熱心に耳を傾けていました。



## 経産省 中部近畿産 業保安監督部要請

鉱山保安課 鈴木課長ら

3名が対応しました。岡本弁護士が、最高裁が三井金属神岡鉱山じん肺訴訟第2陣について、被告の上告を不受理決定し、原告勝訴の名古屋高裁判決が確定したことを報告。1陣訴訟でも同様に三井金属鉱業らのおじん肺加害責任が断罪されており、監督庁として三井金属鉱業・神岡鉱業を指導するように求めました。それに対し「立ち入り検査を実施。鉱安法に基づき適切に監督指導を実施」と監督庁としてまったく誠意が感じられない回答を行いました。「被告はじん肺被害を直視せず、3陣訴訟でも争う姿勢を明確にしている。こう

した企業は、今後も悲惨なじん肺被害を起こす。強く監督指導を実施してほしい。」と求めました。司法判断が出ながら、解決しない企業に監督庁として指導するのは当然のことです。参加者は経産省の対応に怒りを覚えました。

## 東京集結行動

10月25日(火) 10月26日(水)、東京集結行動に水本団長ら10名で参加。25日には、衆議院第1議員会館大会議室で、建物改修解体問題シンポジウムが開かれました。最初に、解体工事現場の事前調査と状況について、東京土建の川口労働対策部長から報告がありました。そして、アスベスト規制をめぐる国際動向、石綿関連法規制改

正と課題についてアスベストセンター所長の名取医師が説明、解体によるアスベスト暴露の危険性を学びました。今後、アスベスト被害を食い止めるために行動することが必要であることを強く実感しました。

その後、集結集会をしました。その中で原告の決意表明では、神岡じん肺訴訟の水本原告団長が、2陣でCTによるじん肺被害の切り捨てを許さない画期的勝利判決を勝ち取ったことを報告、支援していただいたことのお礼を伝えました。参加者から大きな拍手がこりまりました。

26日には、三井金属鉱業(株)の本社がある大崎グイシティで元気よく宣伝行動を行いました。新北海道石炭じん肺訴訟の岩崎団長

から共闘のあいさつをいただきました。10時に要請団10名が会社要請を行いました。2陣原告代表の小北さんは「2年間、コロナ感染拡大のため本社に要請できなかった。今日要請できることを待ち望んでいた。会社から謝罪する気持ちがあるのかなど回答を得られなかったけれど、確実に変わってきていると思う」と要請した感想を述べました。



10月26日 東京 三井金属鉱業本社前

## 2022年10月の活動報告

- 10/3～5 なくせじん肺キャラバン全国一斉電話相談会  
 10/6 神岡じん肺訴訟 原告団会議 @古川中央公民館  
 10/7 なくせじん肺全国キャラバン 愛知行動 @愛知県庁ほか  
 10/11 新規検査(じん肺) @小西クリニック  
 10/12 トンネルじん肺根絶訴訟 第3回弁論 @東京地裁  
 10/12 神岡じん肺3陣訴訟 第4回弁論 @岐阜地裁  
 10/14 神岡じん肺訴訟 弁護団会議 @リモート参加  
 10/16 岐阜県本部定期大会 @岐阜市民文化会館  
 10/18 なくせじん肺全国キャラバン 岐阜行動 @岐阜県庁ほか  
 10/25～26 なくせじん肺全国キャラバン 東京集結行動  
 9/29 10/17 トンネル救済法賛同署名要請 @岐阜選出国会議員事務所

## 2022年11月の予定

- 11/1 第8回執行委員会 @郡上市文化センター  
 11/4 新規検査(難聴) @岡田耳鼻科  
 11/14 トンネルじん肺訴訟第7陣弁論 @福井地裁  
 11/15～16日 国会議員要請 @東京  
 11/15 神岡じん肺訴訟 弁護団会議 @リモート参加  
 11/17 県・労働局要請 県労連主催 @岐阜県庁ほか

## 編集後記

日本ではなじみなかったハロウィンも今や恒例行事となりました。店に行けばカボチャのお菓子があり、テレビを見ると仮装した人たちがいて、レンタルショップではホラー映画特集が並んでいます。そんな中、10月26日に「SILENT HILL 2 (サイレントヒル2)」というホラーゲームが発売されるという発表がされました。これは2001年に発売された同名のゲームのリメイクになります。

主人公ジェイムスの元に、3年前に亡くなったはずの妻から『あなたを思い出の場所待っている』という手紙が届き、疑いながらも再会するために、かつて旅行にいったサイレントヒルという観光地に訪れます。しかしその町は深い霧に覆われており、人ではないものが徘徊している場所になっていました。その中をさ迷いながら、主人公は封印していた記憶を思い出し、真実を見つけていくお話です。

ホラーゲームは苦手ですがこのサイレントヒルシリーズは唯一大好きなホラーです。なぜ恐怖に襲われるのかだけでなく、各登場人物の過去や背景、そして隠された真実もわかりつついく物語もとても面白いです。そのため怖いのに見たいという矛盾を抱えながらもとても待ち遠しいです。

編集委員 畑中